

AND

HOLON

A&Dホロンホールディングス

2025年3月期 第2四半期 決算説明資料

A & Dホロンホールディングス

証券コード 7745

<ご注意>

本資料に含まれる予想に関する記載は、現時点における情報に基づき判断したものであり、今後、日本及び世界の経済動向、新たな技術開発の進展により変動することがあります。従って、当社としては、その正確性を保証するものではありません。

2025年3月期2Q

上期は売上高、営業利益ともに 当初予想を上回る着地

売上高 30,375百万円 2Q予想達成率 102.3%
営業利益 3,273百万円 2Q予想達成率 105.6%

- 半導体関連事業は、一部期ずれが生じたが、半導体市場の回復基調が続くなか、当社グループ製品への需要は堅調
- 医療・健康機器事業は、顧客・地域ごとの需要の強弱や為替の影響などにより前年同期比増収減益
- 計測・計量機器事業は、米州での一部需要の持ち直しの動きやアジア地域での堅調な需要継続により売上、利益ともに増加

2025年3月期予想

中期経営計画最終年度の目標に向け、 通期の増収増益を目指す

売上高 66,000百万円 前期比 +6.5%
営業利益 9,200百万円 前期比 +15.6%

- 半導体関連事業は24年3月期並みの実績を見込む。次世代機への開発に注力
- 医療・健康機器事業は地域ごとの販売戦略および新たな事業展開の推進と原価低減の取り組み強化を図る
- 計測・計量機器事業は、米州の事業再構築、アジア地域の需要を捉え業績の拡大を目指す

| Contents

1 2025年3月期第2四半期 決算概要	P 3
2 2025年3月期第2四半期 セグメント別業績	P 8
3 2025年3月期 業績予想	P 12
4 サステナビリティの取り組み	P 17
5 APPENDIX(参考情報)	P 21

前年同期比売上高 + 3.5%、営業利益 + 3.5%

計測・計量機器事業の実績増を背景に売上、営業利益ともに増加、2Q予想も超過して着地

	2024/3期2Q		2025/3期2Q		増減額	前年同期比	(ご参考)	
	(単位：百万円)	率		率			2Q予想	達成率
売上高	29,335	—	30,375	—	1,039	+3.5%	29,700	102.3%
売上原価	16,503	56.3%	16,610	54.7%	107	+0.7%	—	—
売上総利益	12,832	43.7%	13,764	45.3%	931	+7.3%	—	—
販売費及び一般管理費	9,669	33.0%	10,491	34.5%	821	+8.5%	—	—
営業利益	3,163	10.8%	3,273	10.8%	110	+3.5%	3,100	105.6%
経常利益※	3,411	11.6%	3,184	10.5%	-227	-6.7%	3,000	106.1%
税引き前利益	3,404	11.6%	3,179	10.5%	-225	-6.6%	—	—
親会社株主に 帰属する 四半期純利益	2,150	7.3%	1,769	5.8%	-380	-17.7%	2,100	84.3%
1株当たり 四半期純利益 (円)	78.30	—	64.38	—	-13.92	—	76.41	—

※経常利益の前年同期比減の主な理由：24/3期2Qは為替差益で293百万円発生、25/3期2Qは為替差損で173百万円発生のため

四半期別売上高・営業利益の推移

第2四半期会計期間 売上高は前年同期比+3.2%、営業利益は前年同期比+10.3%で共に過去最高を更新

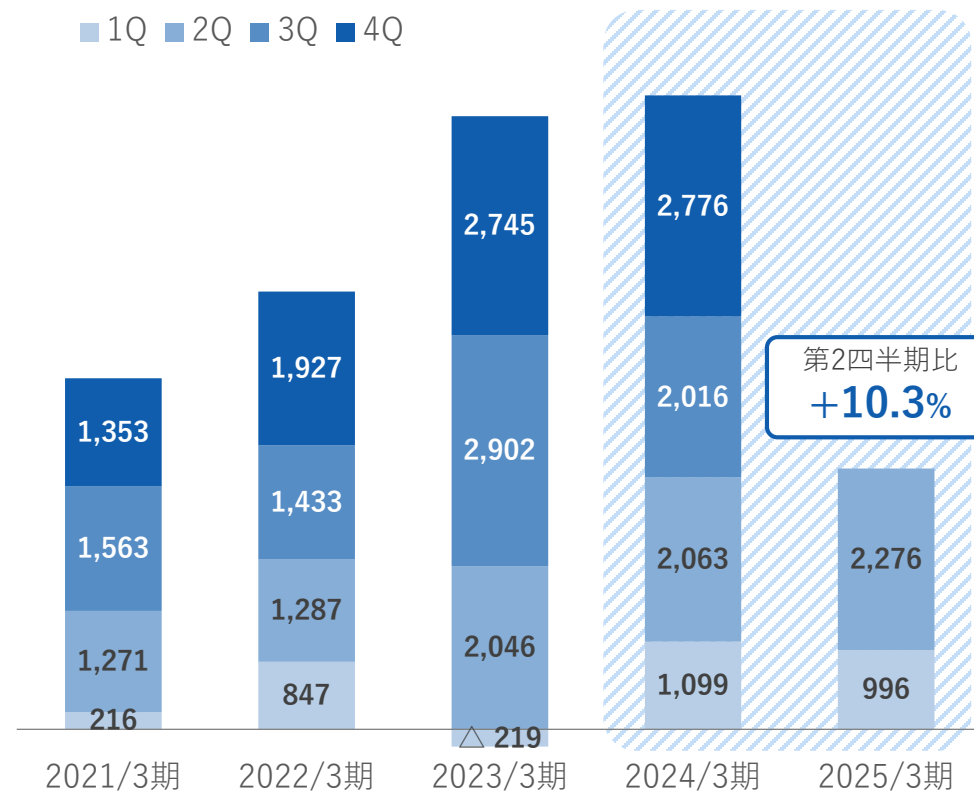
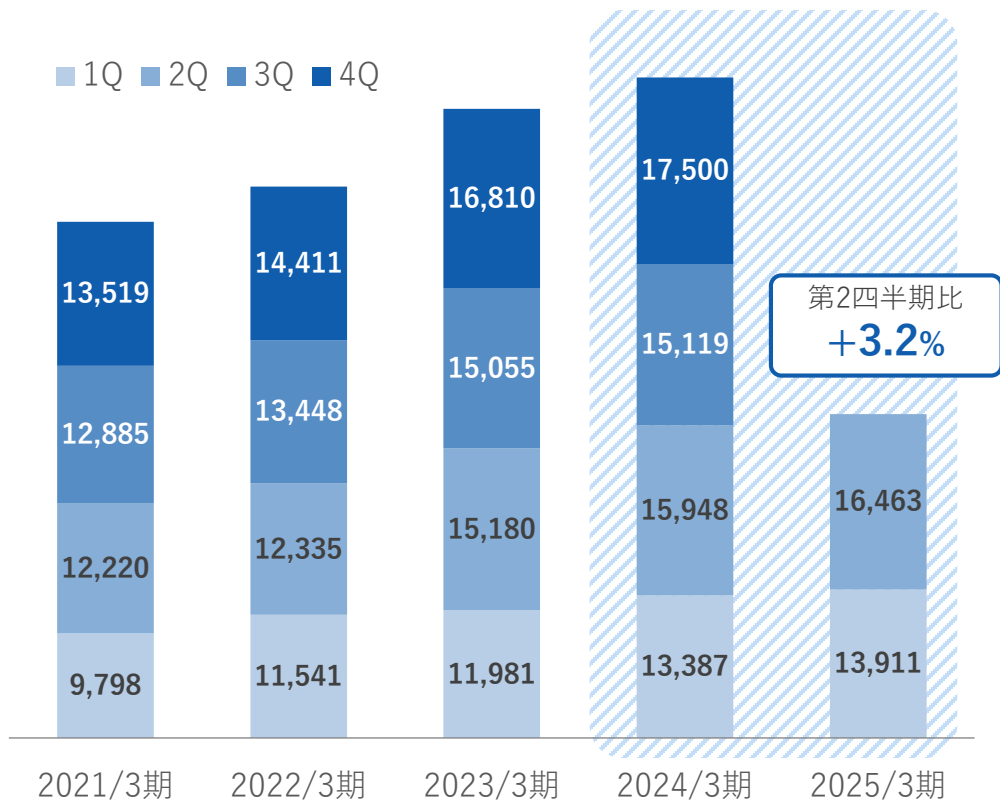
(単位：百万円)

売上高

2021/3期	2022/3期	2023/3期	2024/3期	2025/3期予想
48,424	51,736	59,028	61,955	66,000

営業利益

2021/3期	2022/3期	2023/3期	2024/3期	2025/3期予想
4,404	5,496	7,475	7,955	9,200



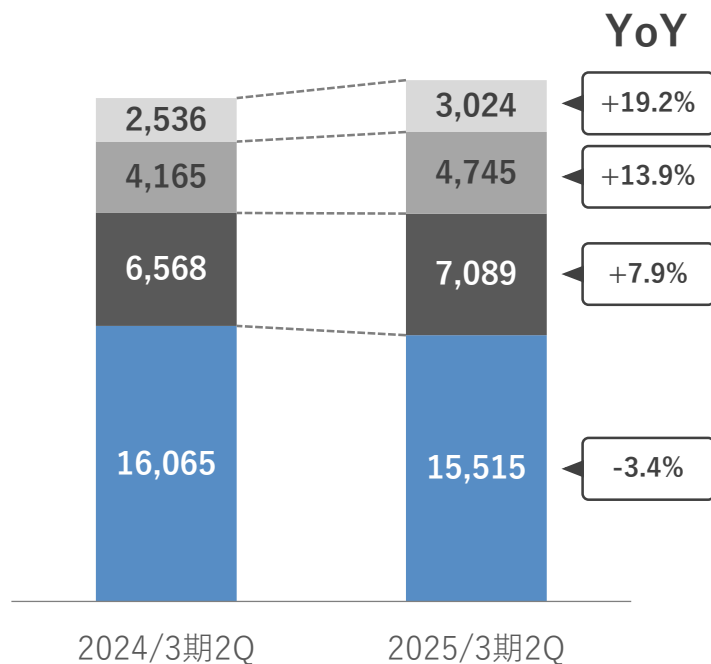
地域別売上高推移

国内は設備投資需要が上向き傾向となるものの、一部案件の期ずれや前年度大型案件の反動減が影響
 海外は米州、アジア・オセアニアにおける計測・計量機器、欧州における医療・健康機器が牽引

地域別売上高

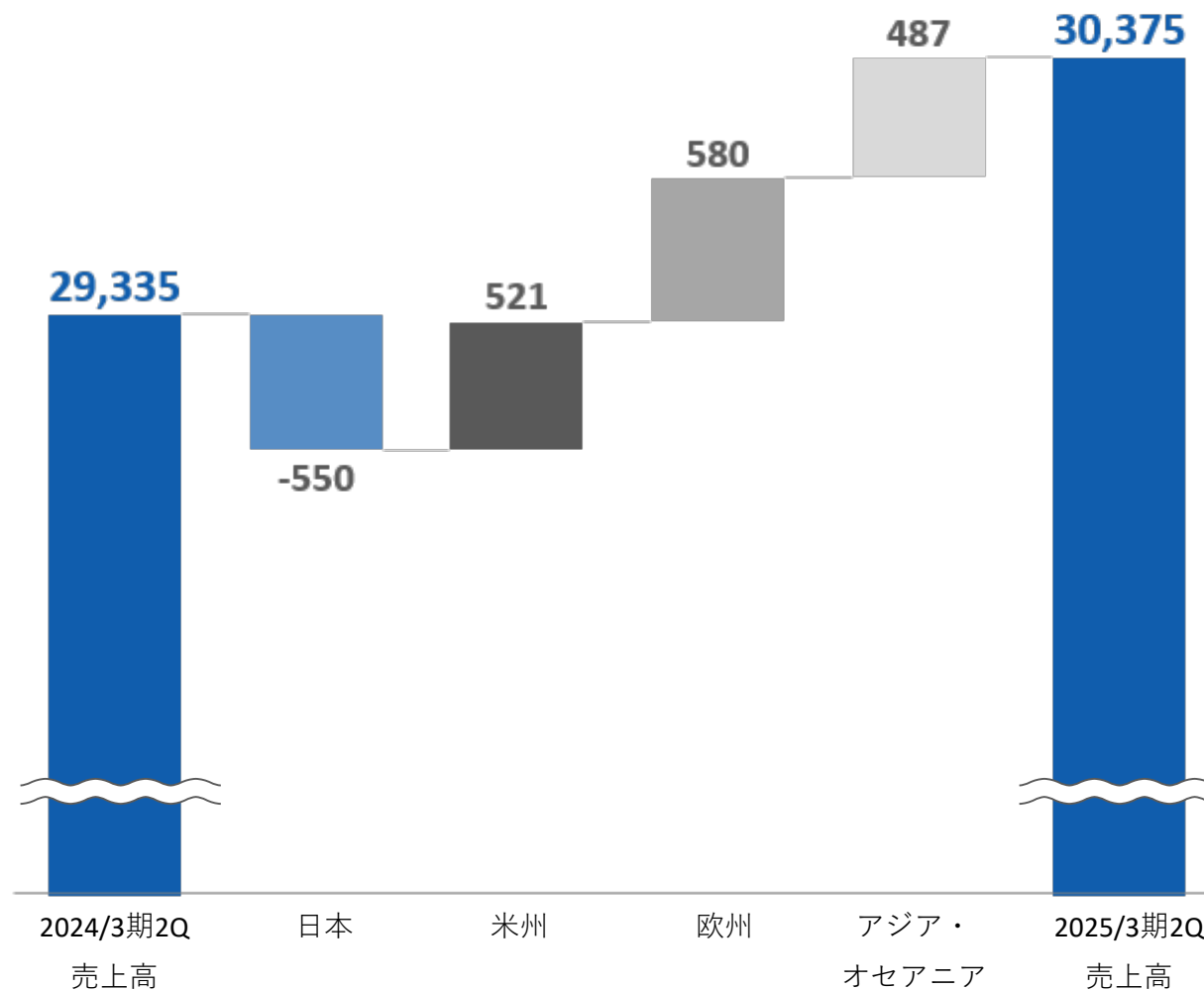
	2024/3期2Q		2025/3期2Q		前年同期比
	額	構成比	額	構成比	
日本	16,065	54.8%	15,515	51.1%	-3.4%
海外	13,270	45.2%	14,859	48.9%	+12.0%

■ 日本 ■ 米州 ■ 欧州 ■ アジア・オセアニア



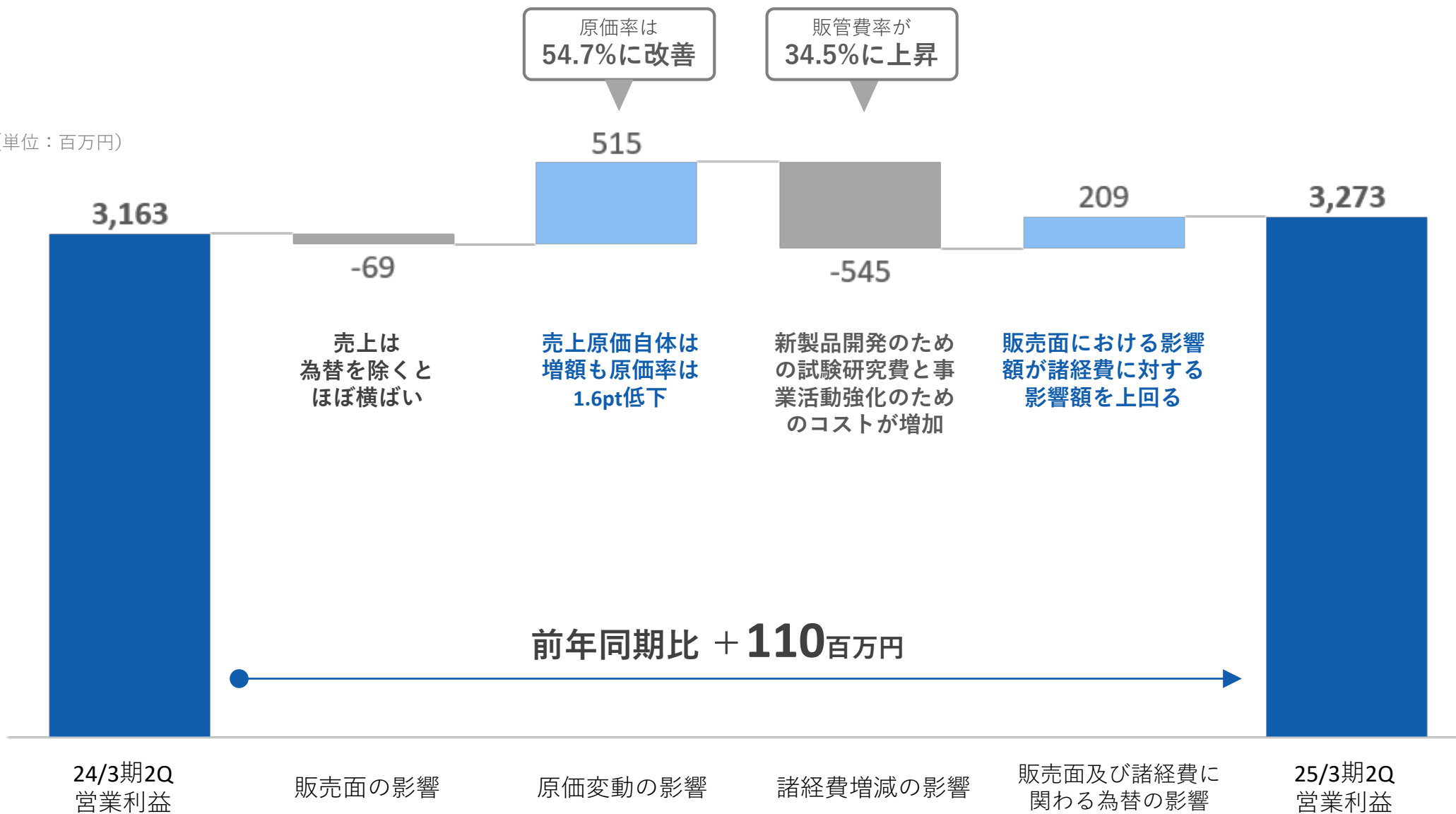
地域別売上高増減分析

(単位：百万円)



営業利益増減要因

(単位：百万円)



| Contents

1 2025年3月期第2四半期 決算概要	P 3
2 2025年3月期第2四半期 セグメント別業績	P 8
3 2025年3月期 業績予想	P 12
4 サステナビリティの取り組み	P 17
5 APPENDIX(参考情報)	P 21

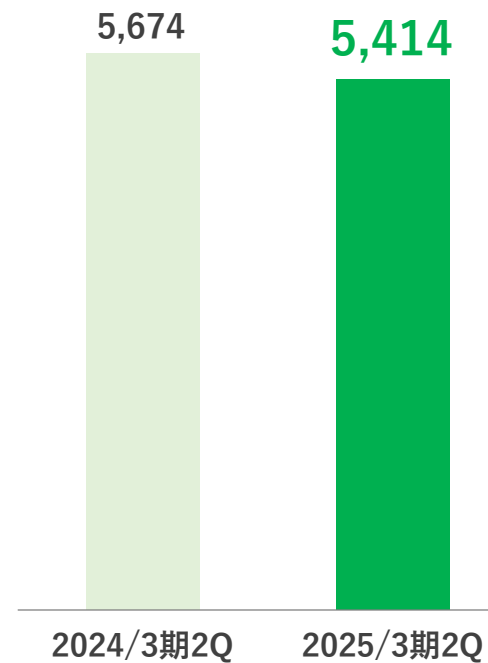
一部案件の下半期への期ずれにより売上、利益ともに減少するも高水準を維持、半導体市場の回復基調が続くなかで当社グループ製品への需要は堅調

- 利益面では新製品開発に伴う研究開発費増などが影響
- ホロン新工場建設に着工、需要増に対応できる安定的な生産や新製品開発を促進する体制の確立を図る

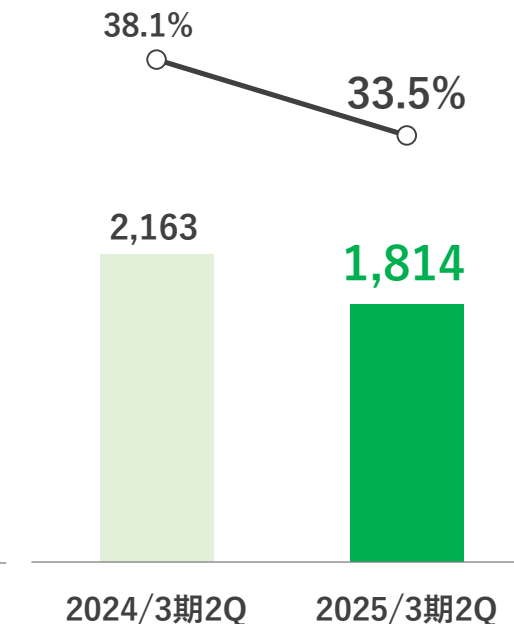
売上高・営業利益

	2024/3期2Q	2025/3期2Q	前年同期比	ご参考	
				通期予想	進捗率
売上高	5,674	5,414	-4.6%	10,500	51.6%
営業利益※	2,163	1,814	-16.1%	-	-
受注残高	11,029	10,140	-8.1%	-	-

売上高



営業利益・率 (単位：百万円)



※：半導体関連事業は国内のみ

※：各事業別の営業利益には、全社費用およびセグメント間の取引調整額（24/3期2Q -1,566百万円、25/3期2Q -1,218百万円）が含まれておりません。

欧州での一部先行需要の取り込みにより、健康機器の売上が増加

欧米における営業活動強化に伴うコスト増と為替の影響などにより利益は微減

日本 大口顧客向けが低調で売上は前年割れ、製品ミックスや生産性向上により利益は増加

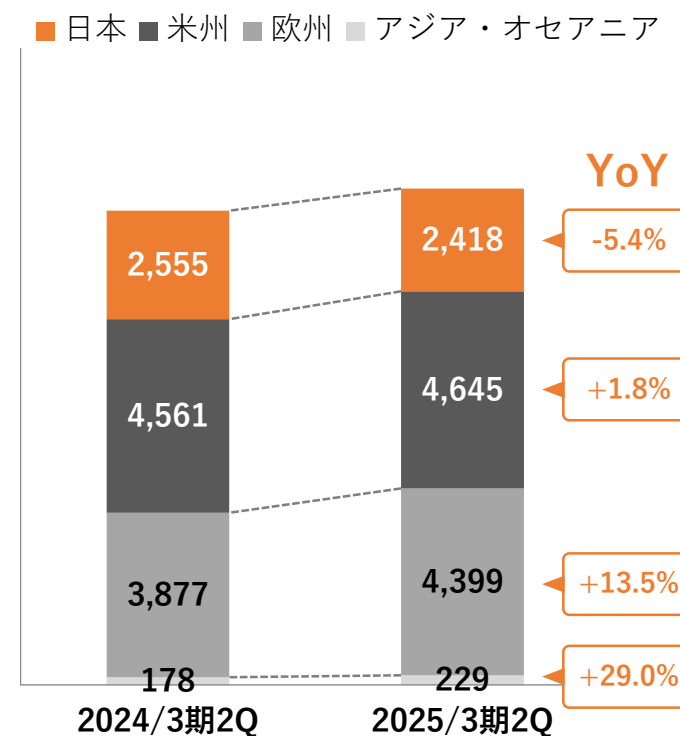
米州 現地での需要は低調が続くものの為替影響により売上増加、利益は事業活動強化に伴う人件費増などにより減少

欧州 現地でのシェア維持に注力し売上増加、利益は営業活動強化に伴うコスト増や為替の影響により減少

売上高・営業利益

	2024/3期2Q ()は構成比		2025/3期2Q ()は構成比		前年同期比	ご参考	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益		通期予想	進捗率
売上高合計	11,173		11,693		+4.7%	23,900	48.9%
医療機器	2,173 (19.5%)		2,137 (18.3%)		-1.7%	4,600	46.5%
健康機器	8,999 (80.5%)		9,556 (81.7%)		+6.2%	19,300	49.5%
営業利益※	2,203		2,134		-3.2%	-	-
受注残高	624		394		-36.8%	-	-

地域別売上高 (単位: 百万円)



米州での一部需要の持ち直しの動きやアジア地域での堅調な需要継続により売上、利益ともに増加

日本

前年度大型案件の反動で売上減となったものの、製品ミックスや生産性向上により利益は増加

米州

一部需要の持ち直しの動きを捉え売上増加、人件費増や為替の影響は続くものの、売上増加により赤字幅縮小

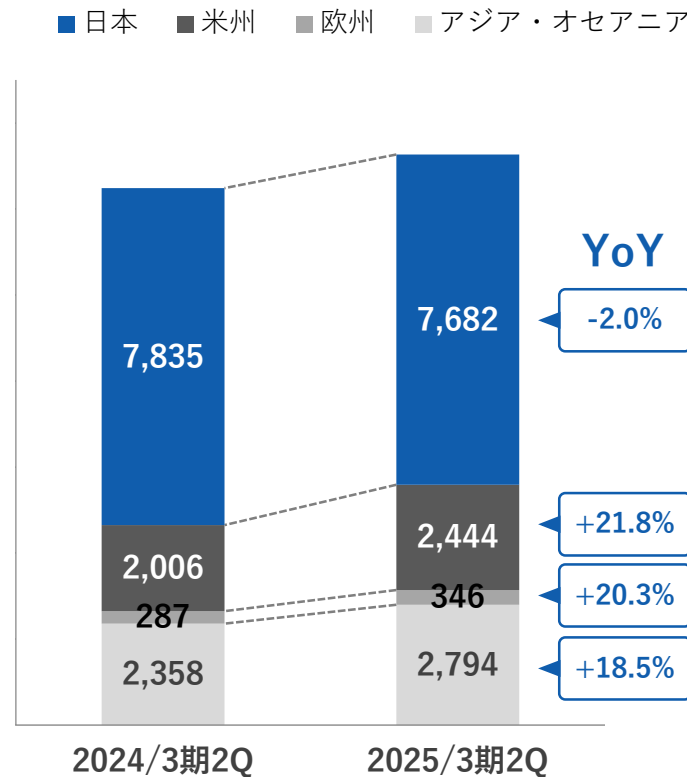
アジア・オセアニア

韓国やインドなどでの計量機器需要が好調に推移し、売上、利益ともに増加

売上高・営業利益

	2024/3期2Q ()は構成比		2025/3期2Q ()は構成比		前年同期比	ご参考	
	売上高	利益	売上高	利益		通期予想	進捗率
売上高合計	12,488		13,267		+6.2%	31,600	42.0%
計量機器	9,276 (74.3%)		9,764 (73.6%)		+5.3%	21,600	45.2%
DSP機器※	3,211 (25.7%)		3,502 (26.4%)		+9.0%	10,000	35.0%
営業利益※	361		543		+50.1%	-	-
受注残高	7,924		7,801		-1.6%	-	-

地域別売上高 (単位：百万円)



| Contents

1 2025年3月期第2四半期 決算概要	P 3
2 2025年3月期第2四半期 セグメント別業績	P 8
3 2025年3月期 業績予想	P 12
4 サステナビリティの取り組み	P 17
5 APPENDIX(参考情報)	P 21

売上高 前期比 +6.5%、営業利益 前期比 +15.6%と増収、営業利益二桁増益を見込む
 中期経営計画最終年度（25/3期）は、23年5月12日に発表した上方修正通りを見込む

事業環境

半導体関連事業

引き続き中長期的には新たな需要は高まる見込み、米国による中国向け輸出規制強化などの環境変化には注視が必要
 当社製品への需要は前期並みを想定

医療・健康機器事業

医療・健康分野でのデジタル化進展やインフラ整備、個人での健康管理などの需要増継続が見込まれる一方、地政学リスクや為替の影響など、引き続き厳しい事業環境を想定

計測・計量機器事業

引き続き世界的なカーボンニュートラル社会やデジタル化社会へのシフトが加速する中、新規技術や生産設備への投資は続く

	2024/3期	2025/3期 予想	増減率
(単位：百万円)			
売上高	61,955	66,000	+6.5%
営業利益	7,955	9,200	+15.6%
経常利益	8,240	8,980	+9.0%
親会社株主に 帰属する 当期純利益	5,299	6,200	+17.0%
1株当たり 当期純利益 (円)	192.91	225.59	+32.68

想定為替レート：1米ドル140.00円、1露ルーブル1.60円

2025年3月期は半導体関連事業については大幅な業績貢献を見込んでおらず、計測・計量機器事業において、主に米国やアジア地域での需要増による業績貢献を見込む

(単位：百万円)		2024/3期 (実績)	2025/3期 (予想)	増減率
半導体関連事業		10,329	10,500	+1.6%
医療・健康 機器事業	医療機器	4,503	4,600	+2.2%
	健康機器	19,060	19,300	+1.3%
	小計	23,563	23,900	+1.4%
計測・計量 機器事業	計量機器	18,909	21,600	+14.2%
	DSP機器	9,153	10,000	+9.2%
	小計	28,062	31,600	+12.6%
売上高合計		61,955	66,000	+6.5%

半導体関連事業

受注残や引合いの状況を鑑み、24年3月期並みの実績を見込む。次世代装置等の新製品開発推進や既存顧客とのリレーション強化によって今後の需要増に対応しさらなる成長への準備を着実に実行

医療・健康機器事業

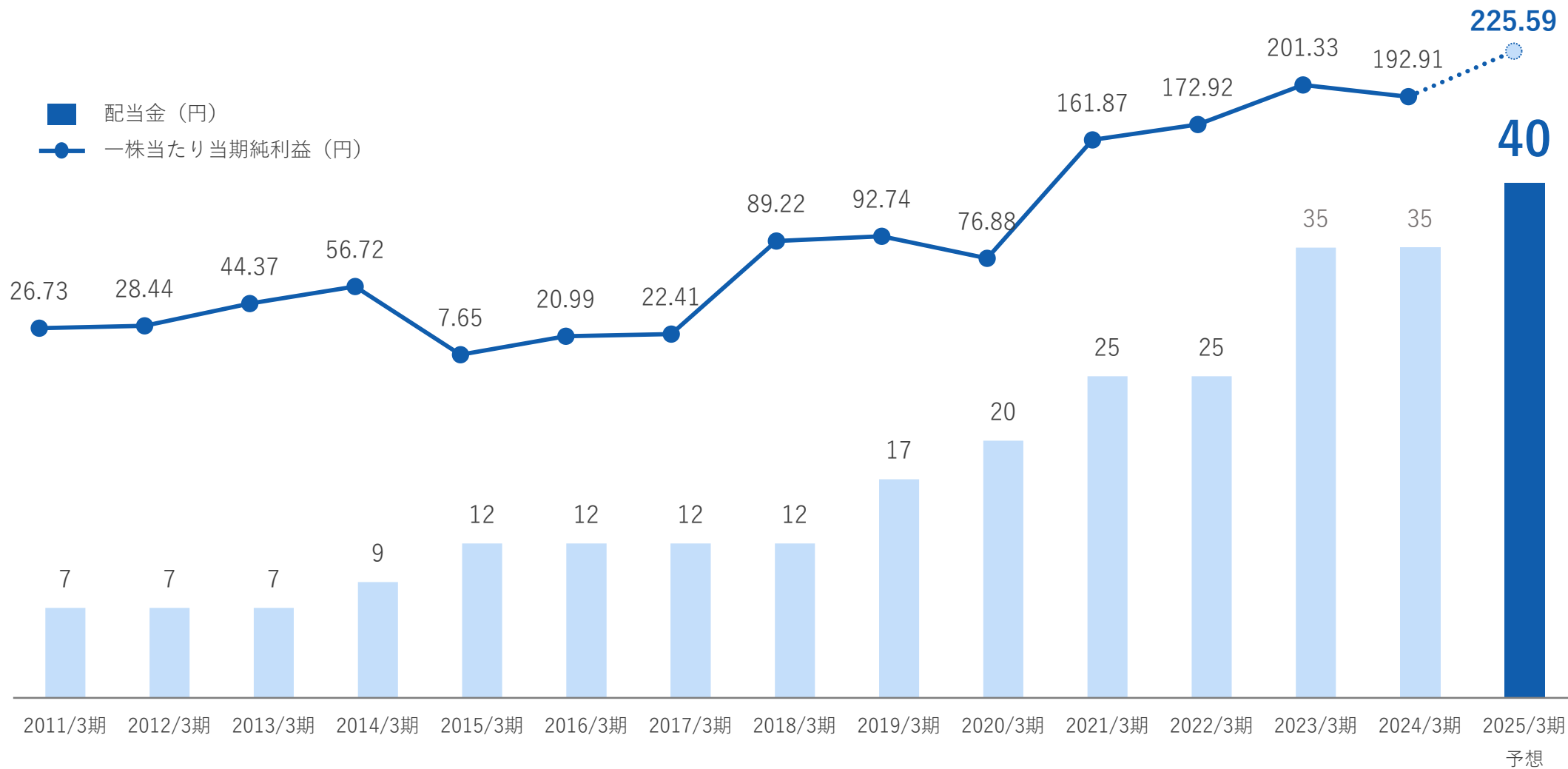
各国での販売エリアや流通の拡大、新たな事業展開の推進などに加え、部材調達の更なる見直しおよび生産性向上の取り組み推進により原価低減を図り、業績の維持・拡大を目指す

計測・計量機器事業

米州での流通ルート見直しや販売チャネル強化など販売戦略見直しによる事業再構築および中国などのアジア地域における事業拡大に加え、電動化への対応強化により業績の拡大を目指す

※計測・計量機器事業の内訳を変更、25年3月期予想からは計測機器とDSP機器をあわせDSP機器としてまとめた

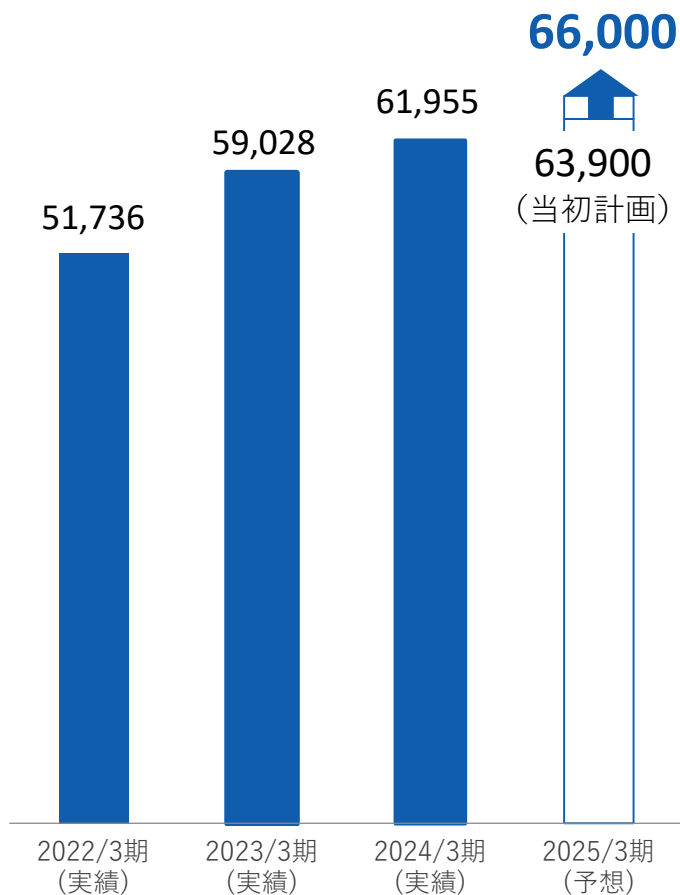
2024年3月期の業績結果を踏まえ、2025年3月期の年間配当予想は2024年3月期から5円増配し40円（中間配当20円、期末配当20円）を予定



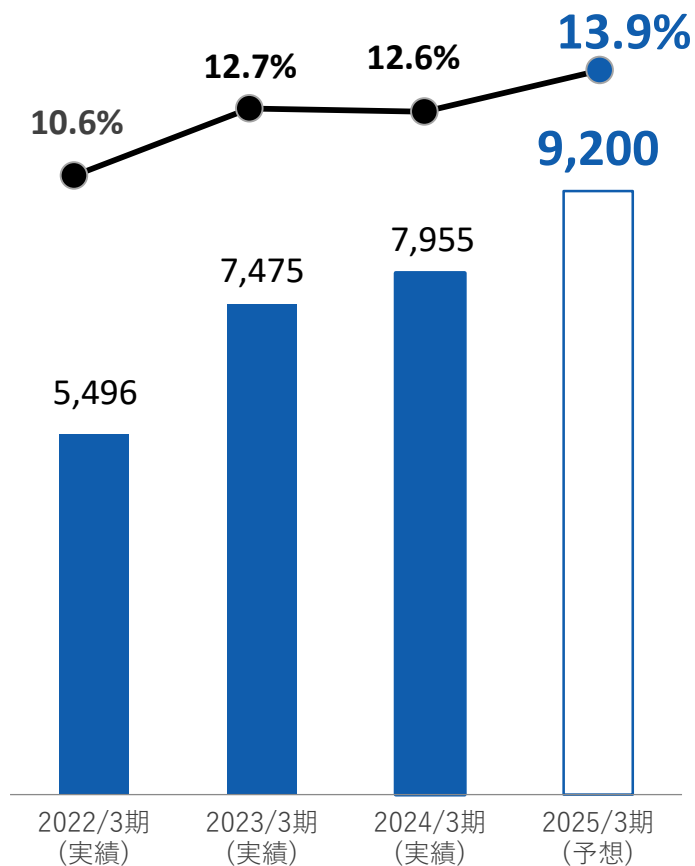
最終年度である25年3月期は、23年5月12日公表の上方修正通りを見込む

(単位：百万円)

売上高



営業利益・率



2025年3月期

売上高
2022/3期比
+ 27.6%

営業利益
2022/3期比
+ 67.4%

| Contents

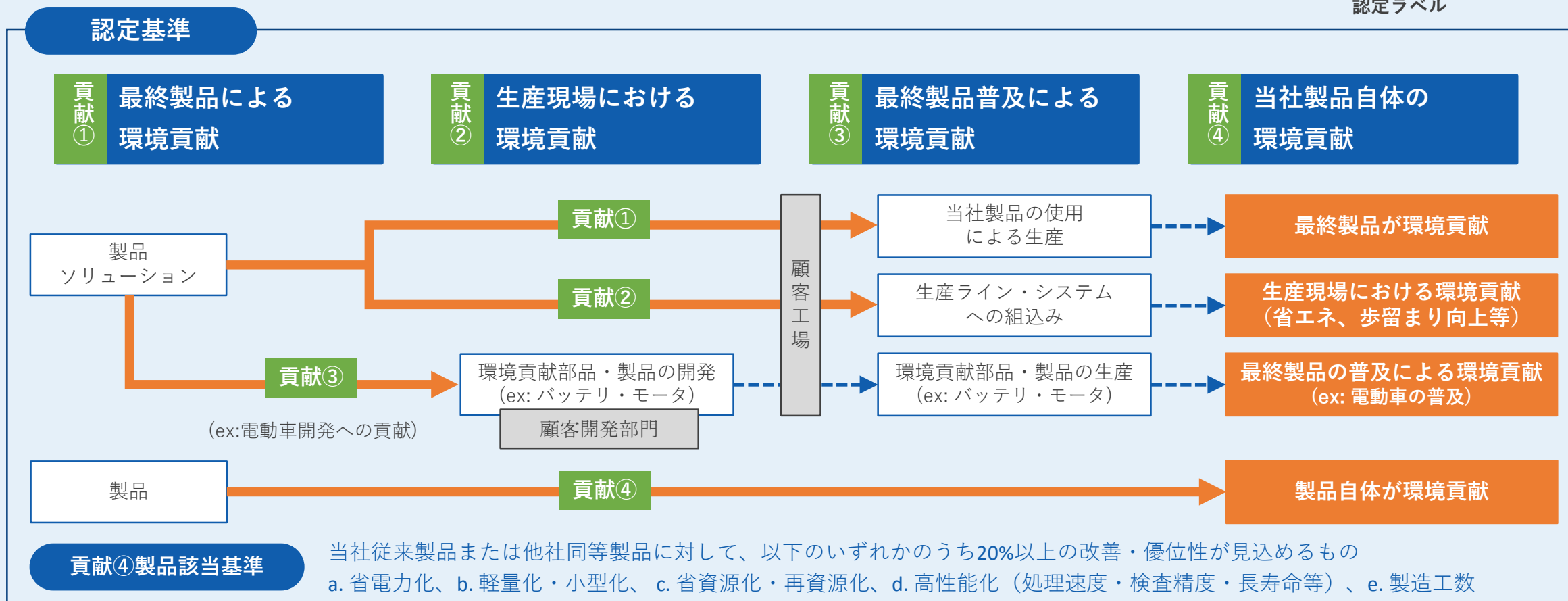
1 2025年3月期第2四半期 決算概要	P 3
2 2025年3月期第2四半期 セグメント別業績	P 8
3 2025年3月期 業績予想	P 12
4 サステナビリティの取り組み	P 17
5 APPENDIX(参考情報)	P 21

A & Dホロンエコプロダクツ認定制度



認定ラベル

当社は2024年11月より環境配慮性に優れた製品を自社認定する「A & Dホロンエコプロダクツ認定制度」を導入しました。グループ全製品を対象とし、環境貢献の考え方に基づく認定基準を満たした製品を「エコプロダクツ」として認定します。2024年度は10製品を認定しました。環境配慮型製品の開発および販売を推進することで、環境負荷低減や地球環境の保全に取り組んでいきます。





認定製品【計測・計量機器事業】

貢献①

貢献④

生産ライン組み込み用高精度計量センサー
AD-4212Cシリーズ



従来製品より27%小型化、消費電力を68%削減、応答速度を1.8倍に向上。電動車用二次電池の製造ラインで電解液の充填量の確認に使われており、精密かつ安全な二次電池製造に貢献

貢献②

貢献④

ウェイトチェッカ/金属検出機/X線検査機
AD-4961A/AD-4976/AD-4991シリーズ



ウェイトチェッカは従来製品より計量精度が60%以上向上し、生産現場での歩留まり改善や省エネに貢献。金属検出機、X線検査機は混入異物製品を検査・選別することにより、市場流通品の回収・廃棄によるフードロスの削減に貢献

貢献④

分析・汎用電子天びん
GX-A/GF-Aシリーズ



従来製品より消費電力を34%削減、新開発のセンサ方式により高速応答、高分解能を実現。また、新機能（衝撃検出、流量測定、自己点検）搭載により幅広いニーズに対応

貢献③

バッテリーHILS
(バッテリー開発向けシミュレータ)



当製品を使用したMBD※により、電動車の重要コンポーネントであるバッテリーの劣化状態再現や長い充電時間、安全性など、実バッテリーでの課題を解消し制御開発の効率化に貢献

※MBD：モデルベース開発
(Model Based Development)

認定基準

貢献①

最終製品による環境貢献

貢献②

生産現場における環境貢献

貢献③

最終製品普及による環境貢献

貢献④

当社製品自体の環境貢献



認定製品【医療・健康機器事業】

貢献④

上腕式ホースレス血圧計
UA-1100NFC



血圧計本体とカフをつなぐホースを失くすことでゴム材を削減、コンパクト設計によりマスターカートンの体積も1/3に削減し環境負荷低減に貢献

貢献④

車いす用バリアフリースケール
AD-6106Rシリーズ



計量台をハニカム（ハチの巣）構造にすることで、従来製品より同強度で約30%の軽量化を実現し環境負荷低減に貢献

認定製品【半導体関連事業】

貢献②

貢献④

半導体製造装置用電源
AD97XXシリーズ



従来製品より60%小型化、約50%軽量化しつつ、性能向上により描画装置の高安定度化を実現。顧客の生産性向上と環境負荷低減に貢献

貢献①

貢献②

貢献④

フォトマスク用
寸法測定・欠陥レビュー装置
ZX/LEXa-20



従来製品より省電力化、高性能化を実現し生産性が1.5倍に向上。半導体製造に必要なフォトマスクの寸法測定・欠陥レビューを行うことで半導体チップの低消費電力化や歩留まり向上に貢献

認定基準

貢献①

最終製品による環境貢献

貢献②

生産現場における環境貢献

貢献③

最終製品普及による環境貢献

貢献④

当社製品自体の環境貢献

| Contents

1 2025年3月期第2四半期 決算概要	P 3
2 2025年3月期第2四半期 セグメント別業績	P 8
3 2025年3月期 業績予想	P 12
4 サステナビリティの取り組み	P 17
5 APPENDIX(参考情報)	P 21

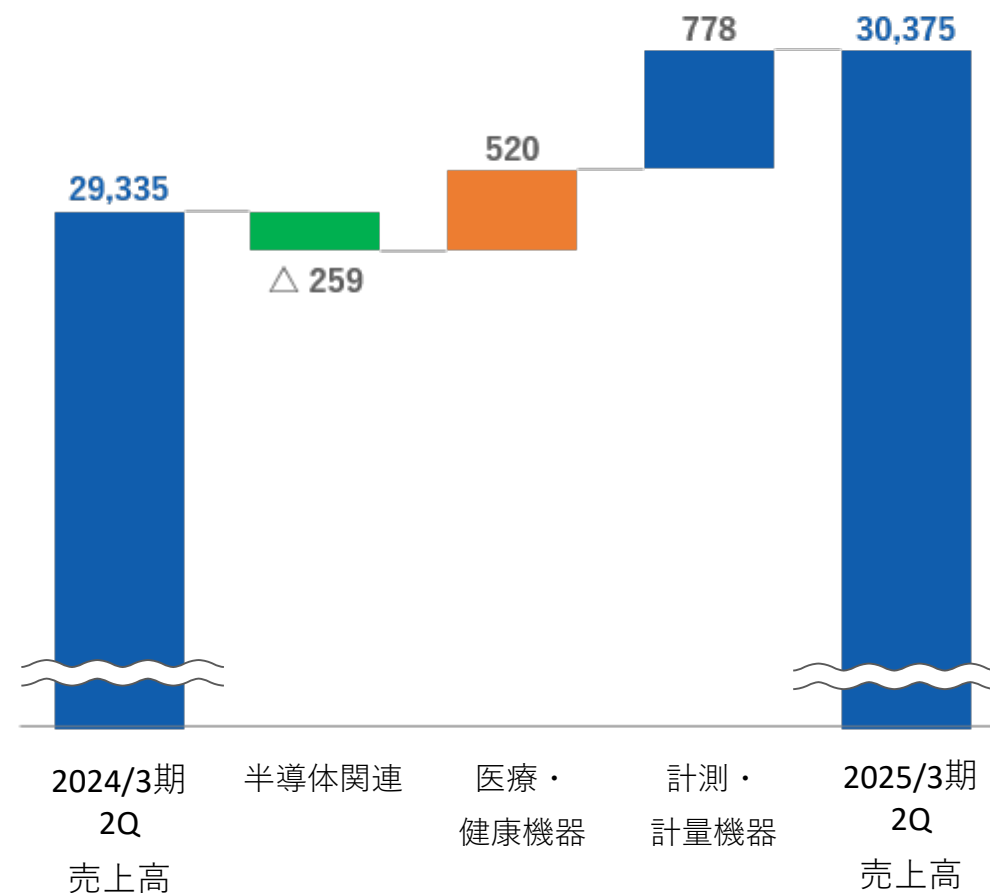
事業別業績

半導体関連事業は一部案件の期ずれで減収減益、医療・健康機器事業は前期比増収、計測・計量機器事業は需要増の傾向を受け増収増益

	24/3期2Q	25/3期2Q	前年同期比	通期予想	進捗率
売上高	29,335	30,375	+3.5%	66,000	46.0%
半導体関連	5,674	5,414	-4.6%	10,500	51.6%
医療・健康機器	11,173	11,693	+4.7%	23,900	48.9%
計測・計量機器	12,488	13,267	+6.2%	31,600	42.0%
営業利益	3,163	3,273	+3.5%	9,200	35.6%
半導体関連	2,163	1,814	-16.1%	-	-
医療・健康機器	2,203	2,134	-3.2%	-	-
計測・計量機器	361	543	+50.1%	-	-
全社消去	-1,566	-1,218	-	-	-

事業別売上高増減分析

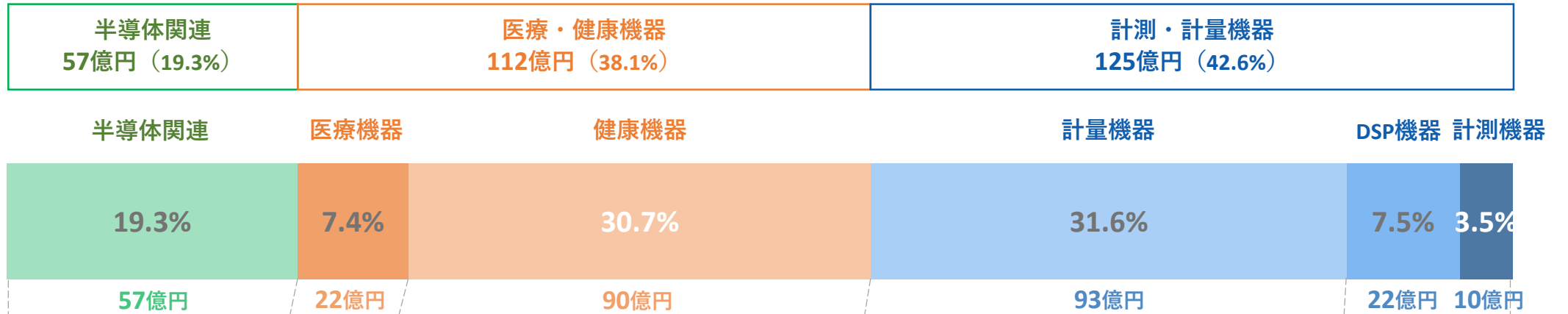
(単位：百万円)



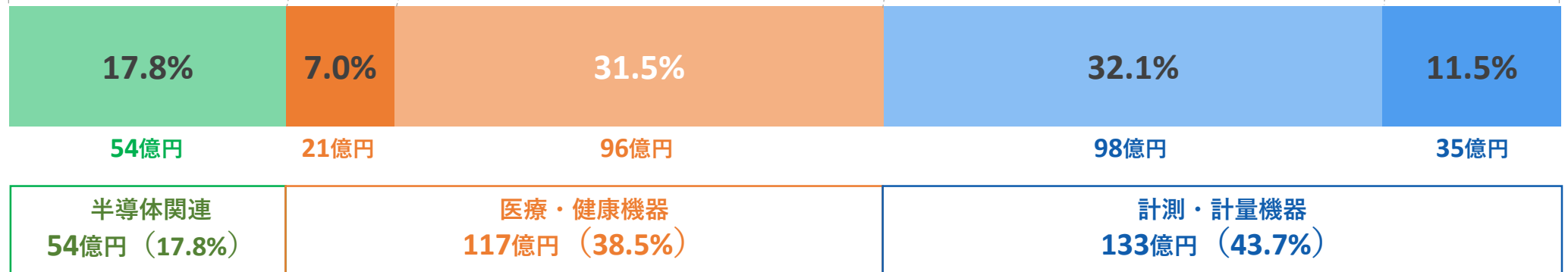
事業別売上高構成

■ 半導体関連 ■ 医療機器 ■ 健康機器 ■ 計量機器 ■ DSP機器 ■ 計測機器

24/3期2Q
293億円



25/3期2Q
304億円



フォトマスク用CD-SEM



全自動血圧計



家庭用血圧計



分析用電子天秤



車載統合計測システム (VMS)



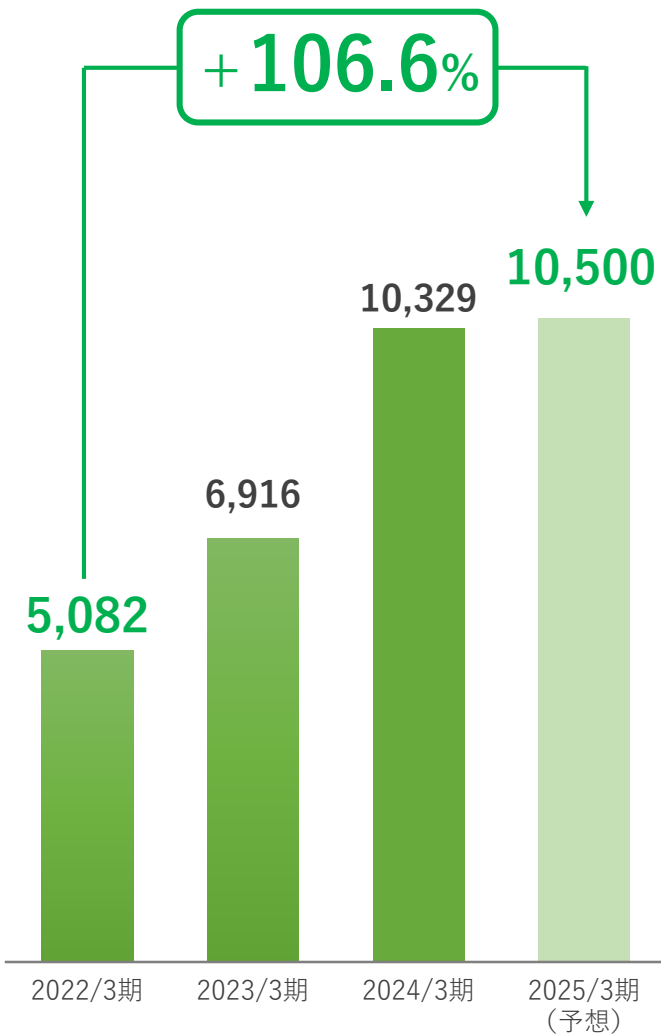
引張・圧縮試験機

中期経営計画数値目標 セグメント別売上高

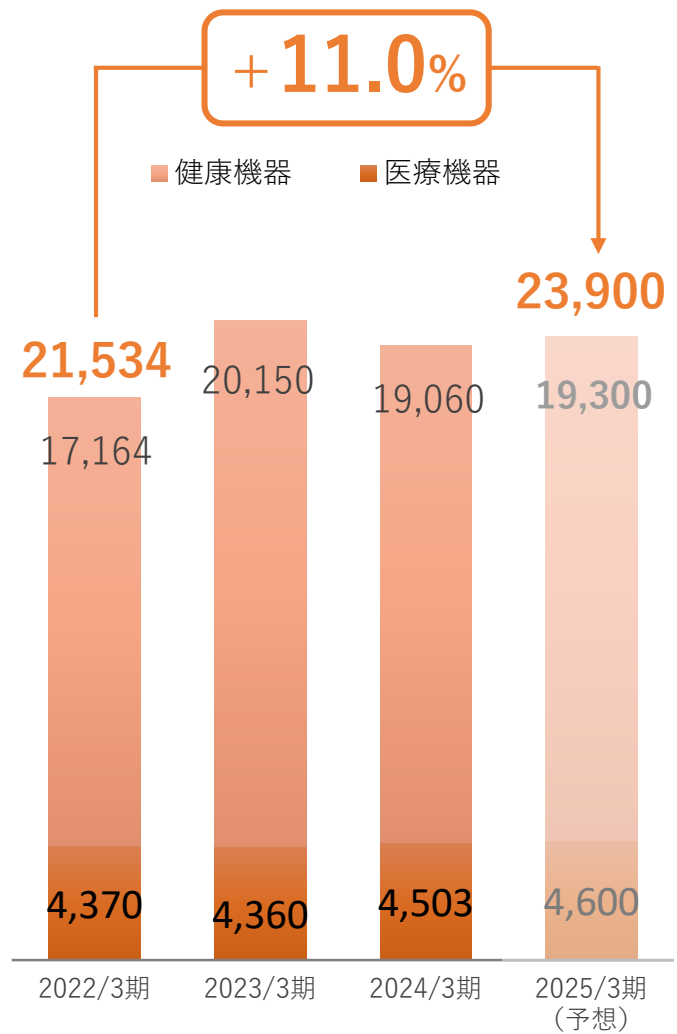
※計測・計量機器事業の内訳を変更、25年3月期予想からは計測機器とDSP機器をあわせDSP機器としてまとめた

(単位：百万円)

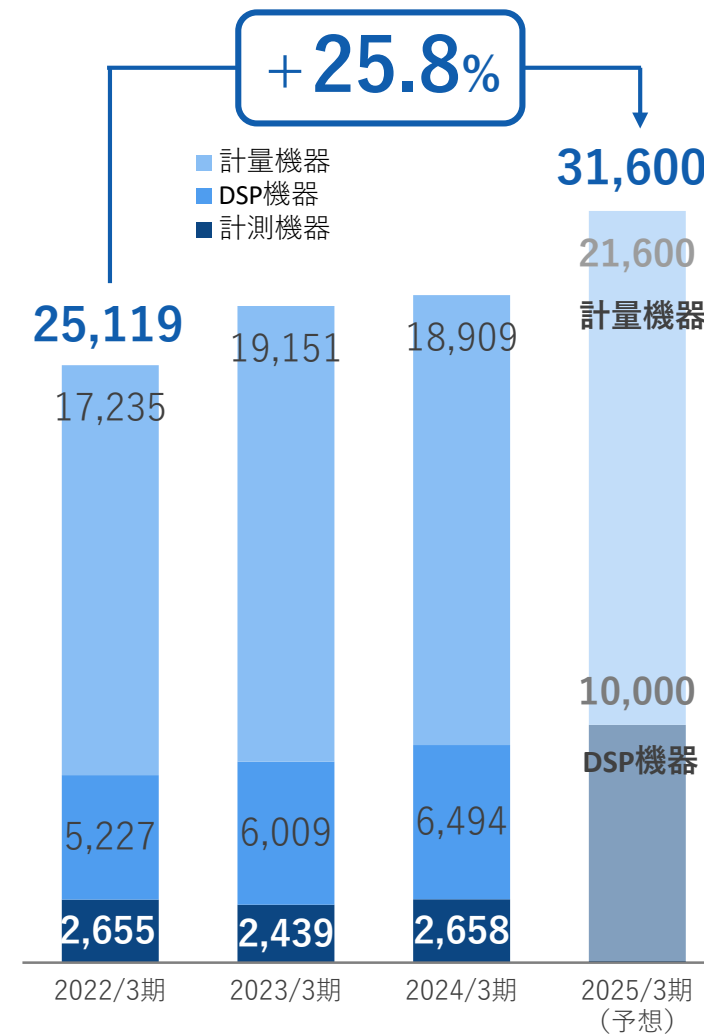
半導体関連事業



医療・健康機器事業



計測・計量機器事業



貸借対照表

(単位：百万円)	2024年3月期末	2025年3月期2Q	増減額
流動資産合計	54,368	49,496	-4,871
固定資産合計	17,618	17,159	-459
資産合計	71,986	66,655	-5,330
流動負債合計	29,896	24,876	-5,020
固定負債合計	4,327	3,707	-620
負債合計	34,223	28,583	-5,640
株主資本合計	38,017	39,273	1,256
純資産合計	37,762	38,072	309
負債純資産合計	71,986	66,655	-5,330
自己資本比率	52.3%	57.0%	+4.7%

- 利益剰余金を中心とした株主資本の増加を有利子負債の返済に充当し、資産・負債を圧縮
- 前期末が非営業日だったことによる、手形等の売上債権・債務の両膨らみが解消
- 法人税や消費税等の納付により流動負債が減少

わたしたちは、長年培ってきた「はかる」技術を社会に提供することを通じて、科学技術の発展、産業の高度化、人々の健康な生活に寄与し、豊かで持続的な社会づくりにグローバルに貢献する企業グループを目指します。



「はかる」をコアとした技術革新

AND

HOLON

A&Dホロンホールディングス



A&Dホロンホールディングス
IRサイトは[こちら](#)から